

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育)／綿引 勝美

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教科教育論においては、教師としての説明責任をまっとうできる能力の育成につとめる。とりわけ、体育教育の歴史、近代体育の背景となっている思想についての理解の欠落を補うという意味から、体育科教育やスポーツ教育の思想史について理解を深められるような授業内容を構築する。教科専門(体育哲学)の立場からは、ドイツにおける「Bewegung-Turn」といわれる社会文化論の潮流を精査し、その問題状況を理解できる教員の養成をめざす。

2. 点検・評価

教科教育論においては、ドイツ語圏での動作教育学の潮流についての文献資料の収集を行い、一部、粗訳を終え、教科専門の授業のなかで資料として利用することができた。教科専門の立場からは、身体論から運動論へのパラダイム転換という点について、主に社会学的な視点からの論文選の分析に手がかりを得ることができた。更に、教科専門の基礎論としての、ジュニアトレーニング科学ハンドブックを抄訳し、幼少期から成人期までのスポーツトレーニングの科学的な基礎について、総覧できる資料を得ることができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○自然体験と実業体験を重視するという立場から、地域の農林業従事者との交流を積極的にはかれるような場をつくる。
○スポーツ活動の社会的な広がりの中で、スポーツ事業に関心をもたせるような指導を行う。とりわけ、地域総合型スポーツクラブとのネットワークを構築する。

2. 点検・評価

- 自然体験等については、目標を達成出来なかった。
- 東京で開催された、コーディネーショントレーナー養成講座、富山で開催されたスポーツ選手育成フォーラムに院生を参加させることができた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ドイツにおける「Bewegung-turn」という思想的な潮流を精査する。
- ドイツの選手選抜制度・トレーニング科学関連資料を収集し解析する。
- スポーツトレーニングに関連するNPOやベンチャー企業との共同研究を推進し、指導者の再教育システムをサポートする。

2. 点検・評価

- 身体論から運動論へのパラダイム転換について、主に社会学的な視点からのドイツにおける理論的展開を総覧することができた。
- ドイツのジュニアトレーニングハンドブックの抄訳を完成させることができた。
- コーディネーショントレーナー養成講座の開催に携わり、5名の資格認定につなげることができた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 教務委員として、授業改善に積極的に取り組む
- 文部科学省等のプロジェクト予算獲得にむけた取組みを継続する。

2. 点検・評価

- 学部教務委員会副委員長として、授業改善等に取り組むことができた。とくにディプロマポリシーの策定、学部授業評価アンケートの改訂作業に関わることができた。
- 学術振興会科学研究費補助金の、二年度目の研究に取り組んだ。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ライプチヒスポーツ科学交流協会を通じた, トレーニング科学の国際的な交流を促進し, 我が国のスポーツ指導者養成のサポートを行う。
- 地元の農林業従事者との積極的交流を推進する。
- 地域総合型スポーツクラブとのネットワークを構築する。
- フィールド研究などをとおして, 附属学校等での授業サポートを継続する。

2. 点検・評価

- 第二回コーディネーショントレーナー養成講座の開催に関わることができた。
- ボランティア活動として, 里山再生の作業を継続中である。
- 徳島県バドミントン協会の選手育成システムの構築に関わり, 体力測定事業を推進し, 指導者との交流を進めている。また富山市での, ジュニア選手の発掘育成事業において, 運動能力測定に関する講演を行った。
- 附属中学校で, コーディネーション能力育成のための単元計画, 実施, に関するフィールド研究を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)